

## 創作絵本の制作・発表を通じた学生の学び

### Student learning through the production and presentation of creative picture books

石川 恵美\*  
(令和4年1月7日受理)

#### 要約

本稿では、「保育内容・言葉」の授業課題である「創作絵本」の制作と級友の前で行った発表を通して、質問紙調査の結果から学生の気付きや学びを抽出し考察を試みた。

その結果、級友の前で自作の創作絵本を発表する際は、「時々子どもの反応を見る」ことが難しいと感じた学生が半数にのぼった。発表者自身の感想でもあるが、級友の発表を参観しても「絵本が固定されていない」ことを挙げ、発表・参観ともに「絵本の固定」に注力していることが分かった。

他者の作品や発表を参観することで、自身を振り返り改善点や参考点を見出せたことは、今後の保育にとって有益な経験となった。

キーワード：創作絵本、保育内容・言葉、学生の学び

keywords：Creation picture book, Childcare content / words, Student learning

#### 1. はじめに

平成29年に告示された3法令（幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領）「保育内容・言葉」のねらいの中に、3歳以上児は「日常生活に必要な言葉が分かるようになる」とともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等（こども園：保育教諭等、幼稚園：先生）や友達と心を通わせる<sup>1 2 3</sup>とある。また、1歳以上3歳未満の「言葉」のねらいにおいても、「絵本や物語等に親しむとともに、言葉のやり取りを通じて身近な人と気持ちを通わせる」<sup>4 5</sup>と明記されている。

保育では、絵本はなくてはならない児童文化財であり、子ども達は絵本を通して物事や言葉を知り、年齢に応じた言葉を獲得していく。また、コミュニケーションの道具としても「言葉」は欠くことのできないツールである。

「保育内容・言葉」の授業においても、各年齢に応じた絵本を紹介したり、読み聞かせの練習を

行ってきた。その延長線上に学生自身が創作した絵本を制作し、級友の前で発表することを課題としている。

創作絵本とは、既存のおはなしではなく一からおはなしを作り、絵を描き、文字を書いたオリジナルの絵本のことである。学生は、創作絵本の制作・発表を通してどのようなことを感じ、どのような気付きや学びを得たのだろうか。質問紙調査の結果から考察してみたい。

#### 2. 研究目的

本研究の目的は、「保育内容・言葉」の授業課題である創作絵本の制作・発表を通して、学生の気付きや学びを考察することである。

#### 3. 創作絵本制作の手順

課題提出約3か月前に、以下①～⑧の手順を示し説明を行った。

(\*いしかわえみ 保育科准教授 幼児教育学・保育学)

- ①テーマを考える
- ②ストーリーを考える
  - ・好きな絵本等を参考にする
- ③場面展開を考える
  - ・起承転結
- ④場面割りを考えてダミー（試作品）を作る
- ⑤文を書く
  - ・文字の大きさ
  - ・文字の配置
  - ・文字の字体
- ⑥絵を描く
  - ・画材を選ぶ
  - ・色を決める
- ⑦絵と文を調和させる
  - ・絵と文のバランスを考える
- ⑧表紙（タイトル・絵）・とびら・背表紙（タイトル・学籍番号・氏名）・裏表紙（絵）・奥付（著者プロフィール、著者コメント、発行日、発行所）を作成する

※創作絵本のサイズ:特に指定はしなかったが、市販の約185×185mmの白紙絵本（ハードカバー）ものを見本として使用したので、ほとんどの学生が同サイズで制作した。中には、手のひらサイズのものやB5サイズで制作したのもあった。

#### 4. 研究方法

##### 質問紙調査

- (1) 調査日：2019年1月30日・31日
- (2) 調査対象者：保育者養成校2年制に在籍する95名
- (3) 回答率：100%
- (4) 調査項目「創作絵本に関するアンケート」より

設問①	過去に創作絵本を作ったことはありますか？
設問②	創作絵本を作ってみてどう思いましたか？
設問③	どんな点に工夫しましたか？
設問④	5分間の発表で、どの部分が難しいと感じましたか？

設問⑤	読み方で難しいと思ったことは何ですか？
設問⑥	絵本の持ち方で難しいと思ったことは何ですか？
設問⑦	他者の発表を見て気付いたことは何ですか？
設問⑧	他者や教員の講評で気付きはありましたか？
自由記述	創作絵本を作成し、発表しての感想

※②～⑦は、複数の質問項目のうち1つの回答を求めた。

##### (5) 倫理的配慮

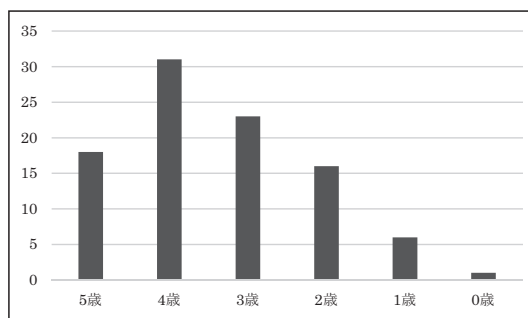
本調査は、無記名の回答であり、回答から個人を特定することはできない。調査用紙配布の際に、口頭で説明し了解を得た。

#### 5. 結果と考察

創作絵本完成時に、「創作絵本提出書」及び「創作絵本に関するアンケート」に記載された以下2点の項目について考察する。

- 1. 「創作絵本提出書」に記載された対象年齢と制作日数
- 2. 「創作絵本に関するアンケート」設問①～設問⑧の8項目と自由記述

##### (1) 制作した「創作絵本」の対象年齢



※対象年齢を4～5歳児と表記した場合は高年齢で、3～4歳児と表記した場合は平均値で算出した。

創作絵本の対象年齢を0歳児～5歳児としたが、学生が選んだのは3～5歳児の幼児クラスが全体の76%であった。そのうち最も多かったのは4歳児33%だった。絵本の内容を理解でき、部分

保育等に活用することも考え、幼児を対象に作成したことが推測される。

## (2) 平均制作日数：約9日

創作絵本の制作には時間を要することが予測されるため、年末年始を挟み制作できるよう約3か月前に課題を提示した。制作日数はそれぞれ異なるが、構想から制作へとある程度の時間を費やしたことが窺える。最短2日、最長32日をかけて制作したことが分かった。

### 設問① 過去に創作絵本を作ったことはありますか？

多くの学生が創作絵本の制作は未経験だったが、過去に中学や高校での制作経験があり、中には幼少期5歳と回答した学生もあった。

「保育内容・言葉」の授業課題として、初めて自分で絵本を作る経験をし最初は戸惑った様子だったが、制作途中で保育中に読み聞かせを行う姿や子どもの反応を想像したりするなど楽しみながら作業を行う様子も伝わってきた。

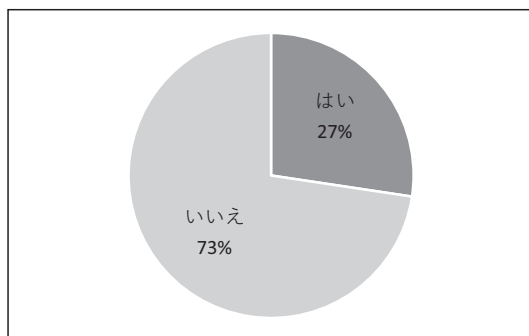


図1. 創作絵本制作の経験

### 設問② 創作絵本を作ってみてどう思いましたか？

「難しかった」との回答が最も多く、全体の半数以上を占めた。次いで多いのが「楽しかった」との回答だった。最初は、完成するまで不安を感じていた学生も、何日もかけて制作しているうちにその作業を楽しんでいたと思われる。自由記述にも、「最初は大変だと思ったが、子どもの顔を思

い浮かべながら内容を考えていると、楽しくなってきた完成した時の達成感が大きかった」と述べている学生も少なくなかった。

「また作りたと思った」と回答する学生からは、制作途中で楽しかったという声も聞かれ、級友の作品や発表の参観を通して制作意欲が湧いたようであった。

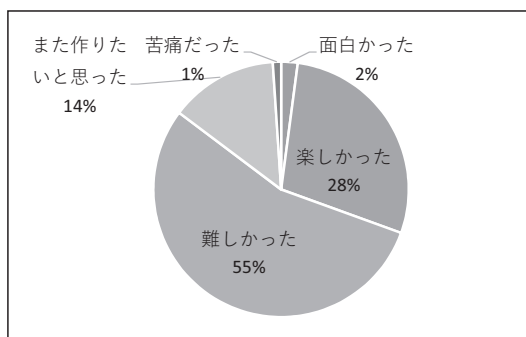


図2. 創作絵本を制作しての感想

### 設問③ どんな点に工夫しましたか？

「ストーリー」を工夫したとの回答が一番多く43%だった。おはなしを一から考えるのが難しい場合は、好きな絵本等を参考に登場人物を加減したり、設定を変更したりしてオリジナルのストーリーを考えると良いとあらかじめ助言した。ストーリーは、絵本の内容やページ数に大きく影響してくる。おそらく構想し下絵を描いてイメージを膨らませたことであろう。起承転結を意識しながら、ストーリー展開することにも工夫が感じられる作品が多く見られた。設定した対象年齢の子

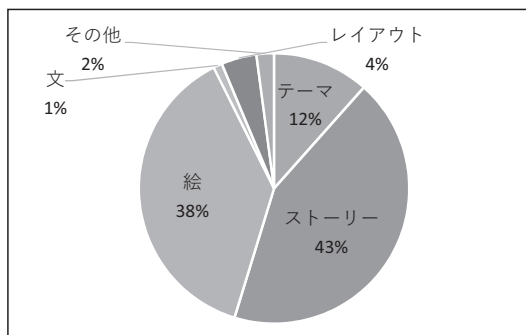


図3. 創作絵本で工夫した点

どもが、理解できるストーリーになっているかを熟考したことが作品から伝わってきた。

絵を描くことに苦手意識を持っている学生も多いが、裁縫の得意な学生は布地を貼ったり、主人公だけ切り紙で作ったりするといった工夫を試みる者もあった。

子ども達にどんなことを伝えたいのか考えて「テーマ」を設定し、制作に取り掛かったが、テーマを絞るのに苦慮した様子も見られた。

#### 設問④ 5分間の発表で、どの部分が難しいと感じましたか？

完成した創作絵本を、5分間級友の前で発表することも課題とした。「導入・展開・まとめ」の流れを意識し、各自が設定した対象年齢の子ども達が目の前にいることを想像しながら読み聞かせを行うことを目的とした。

実際に創作絵本を発表した際、どの部分に難しさを感じたかを問うた。「まとめ」が一番多かった。5分間の発表で、内容やストーリーの分量によっては最後まで読めず、割愛する場面もあったが、読み終わった後のことを考えておらず、「おしまい」と言って終了する学生もいた。他には、「楽しかった？」という質問の投げかけも散見された。各年齢によって「まとめ」の仕方は様々であるが、質問をする場合は子ども自身の言葉で答えられるような問いかけをするよう事前に伝えていたものの、難しかったようである。「導入」は創作絵本を読む前に行うが、創作絵本の内容に関連した手遊びやおはなし等が多かった。「いかに導入で子

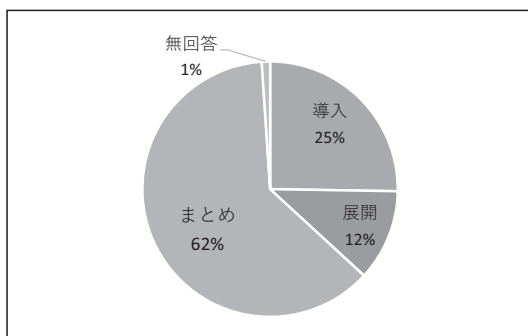


図4. 5分間の創作絵本の発表で難しいと感じたこと

もたちの興味を引くということが大切なのか分かった」との感想もあった。

この発表の場合、「展開」は読み聞かせになるので自分で作った絵本を読むことにはさほど問題を感じていない学生の方が多い結果となった。

#### 設問⑤ 読み方で難しいと思ったことは何ですか？

創作絵本の発表を行い、半数の学生が「時々子どもの反応を見る」ことが難しいと思ったと回答した。絵本を読むことに集中してしまい、子ども役の級友の顔や反応を見ない学生も多かった。子どもの反応を見るからこそ、子どもがおはなしを理解し楽しんでいるのかが分かるが、与えられた発表の5分間を無事にこなすことに注力している様子もあった。経験を積めば自然にできるようになることであるとは言え、学生のうちから意識し身に付けてほしいことである。

絵本を読むスキルである「抑揚」や「感情移入」が難しいと回答した学生は30%を超えた。各年齢に応じた読み方に苦心した結果であろう。

時間の制約があったため、早口になりがちで「読む速度」が難しいと感じた学生は16%だった。

「声の大きさ」を選んだ学生は2%だった。室内の広さや人数によって、声の大きさを調整することは獲得されたとも言えよう。

実際に、読み聞かせを行うことで自身の課題に気付くこともできた。

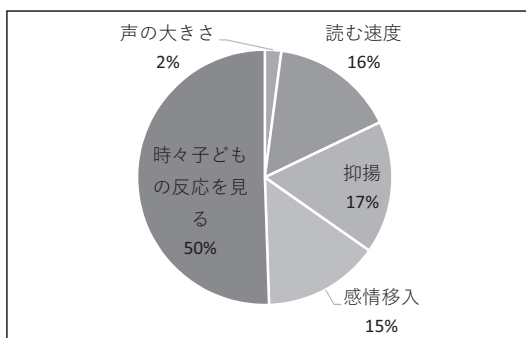


図5. 創作絵本の読み方で難しいと思ったこと

### 設問⑥ 絵本の持ち方で難しいと思ったことは何ですか？

子ども達の中心の位置に絵本を片手で固定させ、絵本の上部が発表者の目線の延長線上になるように絵本を持ち読み聞かせを行う。しかし、慣れない片手持ちのため、絵本が不安定になってしまう。「絵本の固定」が難しいと感じた学生が40%だった。何度も練習を重ね、自分のポジションを見つけると習慣化されるが、経験の少ない学生には難しいという結果になった。

「絵本の角度」は、意識をしないと後傾してしまう。後傾した絵本に保育室の蛍光灯が反射すると、子ども達は絵本を見づらい。読み手には後傾した方が読みやすいが、聞き手には見にくい状態になってしまう。23%の学生が「絵本の角度」が難しいと感じていた。

「ページのめくり方」は、タイミングや指の油分が不足しなかなめくれず、聞き手の集中力が途切れてしまうのでその困難さを感じた結果であると思われる。

「絵本の高さ」を、読み手の目線に維持することが困難なようで、胸の辺りの低い位置で絵本を抱え込むように持つ学生も見られた。

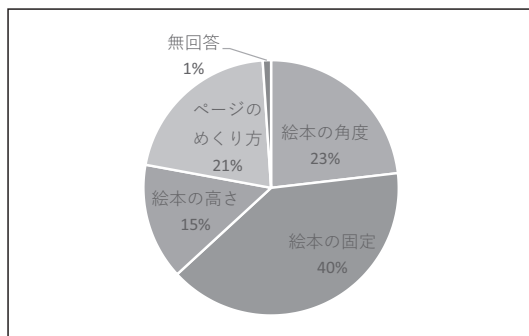


図6. 創作絵本の持ち方で難しいと思ったこと

### 設問⑦ 他者の発表を見て気付いたことは何ですか？

他者の発表を参観して「よく工夫されていた」と感じる学生が最多で27%だった。5分間の発表を通して、その発表の仕方に工夫を感じた結果であろう。

「参考になった」のは、読み方や子どもへの問いかけ方やまとめ方等だと思われる。

一方で、「絵本が固定されていない」「絵本の位置が低い」「読み方が速い」「声が聞き取りにくい」と客観的に他者の発表を捉え、その気付きを得た結果が反映されていると感じる。自分自身が発表するよりも、他者の発表を通してどのようにすれば見やすく聞きやすいのかを分析しているようにも感じた。

「子どもの気持ちになれた」と選んだ学生は、4番目に多かった。子どもはどのように絵本を見て、どのように感じているのかを疑似体験し、子どもの気持ちに寄り添うことを考えたのではなかろうか。

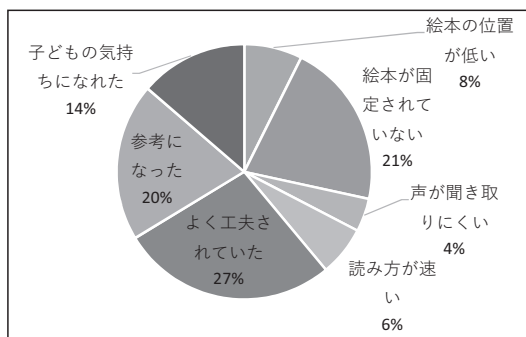


図7. 他者の発表を見て気付いたこと

### 設問⑧ 他者や教員の講評で気付きはありましたか？

1クラス24名程度を2回に分けて、90分の授業中に一人5分間の発表と他者からの講評を行った。その中で発表者自身の気付きはあったかという設問である。

5分間の発表が終わったら、級友1名から「良かった点とこうすればもっと良かったと思う点」について講評をもらい、担当教員からも助言を行った。その講評での気付きがあったと回答する学生は77%、なかったと回答する学生が21%、無回答が2%だった。

発表時は、発表することに意識を集中し、自分ではできているつもりでも他者から見れば、もっとこうすれば良いのにと感じることもある。その



ような点について、意見や指摘をもらうことで次の発表につながる。

他者へ向けて講評をする場合、発表者の言動をよく観察していなければ、的確な意見や指摘はできない。自分ならどうするであろうという視点を持つことも重要である。自分以外の級友の意見や指摘を聞くことで、新たな視座を得ることもできたであろう。

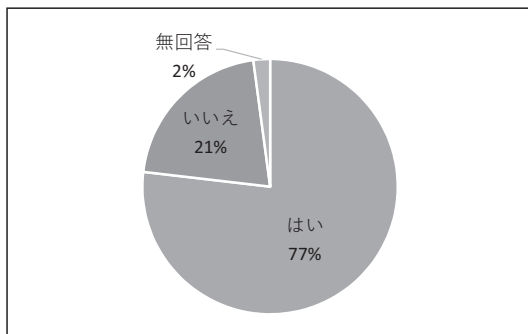


図8. 他者や教員の講評で気づきの有無

### 【創作絵本を制作し、発表しての感想】

※自由記述・原文ママ

#### ～制作について～

- ・物語で子どもに伝えたいことは何かと考えた時、難しくないなと思った。
- ・実際に作ってみて、作っている人の気持ちや思いが少し分かったなと思えたいい機会でした。
- ・他の人の作品を見て、視点や考え方の違いがあって参考になりました。
- ・どんな作品にも作者の思いがることがわかりました。
- ・生まれて初めて絵本をつくって、つくり終わった時はすごく達成感を得ることができました。

実際に創作絵本を制作したことで、作者の気持ちを体感できたという感想が多く寄せられた。制作途中で挫折しそうになった学生もいたが、全員最後まで完成させることができた。今後、実習や

就職してからの保育に活かしてほしい。シリーズ化してみたいという声も聞かれた。

#### ～発表について～

- ・みんなの前で発表してみても分かったことがたくさんあり、勉強になりました。
- ・発表は見ているのと自分がしているのでは、全然違って前に立ってやってみると慣れていなくてごちなくて反省点がたくさん出てきました。
- ・読むときも、もっと子どもをひきつけられるような抑揚のつけかた出来たらいいなと思いました。
- ・もう少し子どもに対して問いかけてみたり、ゆっくりと話を進めることを意識し、実習でも活かしていきたいです。
- ・難しかったが、こういった発表などを通して実践につなげることは大事なことだと思った。
- ・どこまで子どもたちの反応を受け入れるのかも気になります。
- ・発表することがとても緊張しましたが、クラスみんなが笑顔で聴いてくれていたのがとても嬉しかったです。

子ども役の級友の前で発表し緊張したと思うが、実践を重ねることの大切さを学び、次回への意欲につながったようである。

また、他者の発表を参観することにより客観的な視点を持つことができた。他者の発表を自分自身に置き換えて観察することで、今後の課題や読み聞かせの留意点を感じ取ったことであろう。

### 6. おわりに

創作絵本の制作・発表を通して、学生の気づきや学びを考察することを目的に論考を進めてきた。

73%の学生は創作絵本制作が初体験であったが、その過程でストーリーの工夫や多くの試行錯誤を経て完成させた。

級友の前で自作の創作絵本を発表する際は、「時々子どもの反応を見る」ことが難しいと感じた学生が半数にのぼった。発表者自身の感想でもあるが、級友の発表を参観しても「絵本が固定されていない」ことを挙げ、発表・参観ともに「絵本の固定」に注力していることが分かった。

他者の作品や発表を参観し、自身を振り返り改善点や参考点を見出すことができたことは、今後の保育にとって有益な経験となった。

絵本の楽しみ方<sup>6</sup>や読み聞かせの基本<sup>7</sup>を確認し、より読み聞かせの経験を重ね、自信をもって子ども達と一緒に絵本を楽しんでほしいと思う。

今後も創作絵本の制作・発表の授業課題を継続し、学生の気付きや学びの変化や学年による比較を試みることを課題としたい。

#### 引用文献

- 1 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館、2017年、p.27
  - 2 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館、2017年、p.30
  - 3 文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館、2017年、p.19
  - 4 厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館、2017年、p.20
  - 5 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』フレーベル館、2017年、p.23
- 年
- 6 秋田喜代美・三宅茂夫監／秋田喜代美・砂上史子編『子どもの姿からはじめる領域・言葉』みらい、2020年、p.72
  - 7 駒井美智子編『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい、2012年、p.98

